

宇佐町・片野新町地区浸水対策事業の公共事業評価について

1 浸水対策の基本的な考え方

本市ではこれまで、浸水被害の最小化を目指して、積極的に雨水整備を進めてきた。しかしながら、平成30年7月の豪雨で多くの浸水被害が発生したこと、そして、今後も気候変動等により激甚化・頻発化する豪雨から市民の生活を守るため、「北九州市上下水道局雨水対策基本方針」を令和3年3月に策定した。

この基本方針では、「浸水リスク」や「都市機能集積度」を定量的に評価したうえで、新たに「重点整備地区」(16地区)を設定し、本市における過去最大規模の降雨(70mm/h)に対して、床下浸水が概ね解消できるよう、より一層効果的に雨水整備を進めている。

2 宇佐町・片野新町地区の浸水対策事業

宇佐町・片野新町地区(重点整備地区)では、平成21年、22年、25年、29年、30年の豪雨により浸水被害が発生した。特に、平成30年7月の豪雨では、市内で過去最大規模の降雨(70mm/h)を記録し、床上浸水110戸、床下浸水156戸の被害が発生した。

そのため、過去に大きな浸水被害が発生した当地区において、災害に強く、安らぐまちの実現を図るため、雨水貯留管や雨水増補管の整備手法を立案し、昨年度、公共事業評価の事前評価1を実施した。(令和6年1月24日、令和6年3月21日環境水道委員会 報告済)

今年度、事前評価1の外部評価での意見を踏まえ、事業費を精査し、費用便益比(B/C)を算出したうえで、北九州市公共事業評価システム要綱に基づき、事前評価2(外部評価、パブリックコメント)の手続きを実施するもの。

3 事業の計画概要

- (1) 事業期間 令和5年度～令和12年度(うち工事期間8～12年度)
- (2) 整備内容 宇佐町：① 雨水貯留管(内径：φ4,500mm 延長：約1,700m)
片野新町：② 雨水増補管(内径：φ1,100mm 延長：約600m)
- (3) 整備目標 本市における過去最大規模の降雨(70mm/h)に対して、床下浸水の概ね解消を図る。
- (4) 事業費 93億円
- (5) 費用便益比(B/C) 1.79

4 今後の予定

令和6年12月中旬～下旬	公共事業評価に関する検討会議(外部評価)
令和7年1月中旬～2月中旬	市民意見の聴取(パブリックコメント)
令和7年度	実施設計
令和8～12年度	工事